

## ライブDVDのエンドロールに出てくる人達の役割・人数の統計

東放学園音響専門学校 音響芸術科 1-F 永倉 里紗

### 目次

1. 研究動機
2. 前提となる考え方（定義）
3. 検証方法
4. 検証結果
5. 考察
6. まとめ

### 1. 研究動機

ライブDVDを見ていて、自分の好きなアーティストのライブDVDのエンドロールに、スタッフとして名前を載せられることが出来たらすごいことだなと思った。そこから、エンドロールに出てくる人達は、どのような役割の人の名前が載っているのか、そのライブにどこまで関わった人の名前が載っているのか気になったから。

エンドロールに出てくる人達の役割を把握することで、一つのライブにどのような人達が関わっているのか検証していきたい。

### 2. 前提となる考え方（定義）

この研究をはじめる前までのエンドロールのイメージは、音響や照明、カメラマンなど、実際にライブの現場において、ライブDVDに収録されているライブに関わったスタッフの名前や、アーティストのマネージャーの名前などが載っているのだろうなというものだった。

「エンドロール」の意味を調べてみると、<エンドロール：映画の終わりに表示される、製作者、監督、小道具などの名前を列挙した一覧。>（出典：コトバンク）とある。また、CDやレコードにおいて、出演者、スタッフ、制作に関わった企業、団体などの名前を表示するものは「クレジットタイトル」と呼ぶことも分かった（ウィキペディアより）。この研究においては、なじみがある「エンドロール」という呼び名で扱っていきたいと思う。

### 3. 検証方法

私が好きなアーティストである Mr.Children のライブ DVD を使用する。エンドロールを確認し、出てくる人達の役割と人数をすべてノートに書き起こし、そのデータを Excel を使用し表にした。何作品かピックアップをし、比較なども出来るようにした。

使用した DVD は、①最も過去のもの、②最新のもの、③ドームツアーやスタジアムツアーではなくホールツアーやのライブを収録したもの、④1つのアルバムツアーでも、(1)ドームツアーのものと(2)スタジアムツアーのもの（2作品）、⑤(1)デビュー10周年で行われたライブと(2)20周年で行われたライブのもの（2作品）、⑥事務所が変わったことがあったので、(1)変更前のものと(2)変更後のもの（2作品）の全部で9作品である。以下に作品名を挙げる。

- ① 「regress or progress '96-'97 IN TOKYO DOME」（2001.6.21 発売）
- ② 「Mr.Children Dome Tour 2019 Against All GRAVITY」（2019.12.25 発売）
- ③ 「Mr.Children、ヒカリノアトリエで虹の絵を描く」（2017.12.20 発売）
- ④(1) 「Mr.Children “HOME” TOUR 2007」（2007.11.14 発売）
  - (2) 「Mr.Children “HOME” TOUR 2007～in the field～」（2008.8.6 発売）
- ⑤(1) 「Mr.Children CONCERT TOUR POPSAURUS 2001」（2002.1.1 発売）
  - (2) 「Mr.Children TOUR POPSAURUS 2012」（2012.12.19 発売）
- ⑥(1) 「Mr.Children [(an imitation) blood orange]」（2013.12.18 発売）
  - (2) 「Mr.Children REFLECTION {Live&Film}」（2015.12.16 発売）

### 4. 検証結果

それぞれのエンドロールをまとめた表が別紙の Excel にある。検証の結果、どのエンドロールにも必ずある項目と、ライブ DVD によって書かれている項目など、様々な項目があることが分かった。それぞれの項目について取り上げる。

<必ずある項目>

- ・メンバー
- ・サポートメンバー
- ・Stage (Stage Manager、Stage Set Designer、Set Director、Carpenter、Rigger、Stage Set Coordinator など)
- ・Sound (Sound Designer、FOH Engineer、Monitor Engineer など)
- ・Lighting (Lighting Designer、Follow Spot Operator、Moving Light Technician など)
- ・Power (Chief Enginner、Coordinator など)
- ・Visual (Visual System Manager、Creative Director、Video Operator など)
- ・Special Effect (Coordinator、Engineer など)
- ・Band Technician (Guitar Technician、Bass Technician、Band Technician など)

- Trucking/Transport (Transport Coordinator、Transport、Driver など)
- Merchandising (Project Manager、Sales Producer、Art Director など)
- Shooting Staff (Director of Photography、Cameraman、Video Engineer、VTR Operator、Production Manager、Grip Operator など)
- Recording (Recorded&Mixed、Mastered、Assistant など)
- Authoring (DVD/Blu-ray Encode、DVD/Blu-ray Authoring など)
- DVD&Blu-ray Package Design (Art Direction、Photography、Jacket Illustration、Design など)
  - Stylist
  - Hair&Make-up
  - Photographer
  - Trainer
- Record Company (Executive Producer、A&R/Marketing Planner、A&R/Promoter、Sales Promotor、A&R Desk など)
- Management (Executive Producer、Artist Manager、Production Manager、Management Desk など)
  - Tour Management (Tour Director、Tour Manager、Tour Management Desk、Travel Arrangement など)
  - Special Thanks (Promoter、個人名、企業名、会場名など)

<ライブ DVD によっては書かれている項目（主なもの）>

- Stage Vision Camera System (Planner of Photography、Switcher、Cameraman、Scripter、Grip Operator、Instruction など)
- Kids/Child Care (Child Care Planner、Child Care Staff など)
- ProTools (Operator)
- Body Trainer
- Vocal Mentor/Voice Trainer
- Manipulator
- DVD&Blu-ray Production (Project Manager、Director、Production Desk など)
- VTR (OA Mixer、Clear-Com、Wireless Transmission、Timekeeper、Technical Cooperation、Producer など)
- Interview (Video Engineer、Lighting Designer、Interviewer など)

次に、DVD それぞれの特徴を挙げる。

① 「regress or progress '96-'97 IN TOKYO DOME」（総計 364）

- Tour Doctor、Goods Design の項目がある。
- 一番はじめに主な代表者、企業名を挙げている。

- ・Transport の人数が多い。
- ・Visual の項目の代わりに Projection の項目があると考えられる。
- ・Band Technician の項目が、楽器で分けられているのがドラムのみ。
- ・Special Thanks には会場名。
- ・Executive Producer が 2 人。
- ・Produced はプロデューサーの小林武史&Mr.Children。

② 「Mr.Children Dome Tour 2019 Against All GRAVITY」（総計 369）

- ・Laser、PAD Teleprompter System、Music Director/Creative Director、Film Director、Body Trainer、Vocal Mentor の項目がある。
- ・Visual、Recording Staff の人数が多い。
- ・Shooting Staff の人数が少なめ。
- ・Special Thanks には Promoter。
- ・Produced は Mr.Children。

③ 「Mr.Children、ヒカリノアトリエで虹の絵を描く」（総計 244）

- ・NET LED、Prompter、Voice Trainer の項目がある。
- ・全体的な人数が少なめ。
- ・Shooting Staff の人数が少なめ。
- ・Special Effect の項目がない。
- ・Merchandising、Document Cameraman の人数が多め。
- ・Special Thanks には Promoter。
- ・Produced は Mr.Children。

④(1) 「Mr.Children “HOME” TOUR 2007」（総計 455）

(2) 「Mr.Children “HOME” TOUR 2007～in the field～」（総計 499）

この 2 作品はほぼ同じ内容だったのでまとめて記載する。

- ・Manipulator、Environmental Association、Still Photograph、Child Care の項目がある。
- ・全体的な人数が多め。
- ・Shooting Staff の人数が多め。
- ・Special Thanks には OORONG-SHA、TOYS FACTORY。
- ・Produced はプロデューサーの小林武史。
- ・(1)と(2)の違いは、(2)の方が(1)より Shooting Staff の人数が多いことと、(2)には Opening&Interview 欄があることである。

⑤(1) 「Mr.Children CONCERT TOUR POPSAURUS 2001」（総計 277）

- ・Visual の項目の代わりに Projection の項目があると考えられる。
- ・Stage の Rigger、Tour Management の人数が多い。

- ・Shooting Staff の人数が少ない。
- ・Band Technician が楽器別に分かれていない。
- ・Merchandising、Authoring、Management の項目がない。
- ・Special Thanks には OORONG-SHA、TOYS FACTORY。
- ・Executive Producer が 2 人。
- ・Produced はプロデューサーの小林武史。

⑤(2) 「Mr.Children TOUR POPSAURUS 2012」（総計 496）

- ・Interview、VTR、Bonus Live Editor、Child Care の項目がある。
- ・Shooting Staff の人数が多い。
- ・Cameraman、Camera Assistant の人数が多い。
- ・Special Thanks には Promotor。
- ・Produced はプロデューサーの小林武史。

⑥(1) 「Mr.Children [(an imitation) blood orange]」（総計 438）

- ・Special Props の項目がある。
- ・Lighting、Kids Care の人数が多め。
- ・Special Thanks には Promotor。
- ・Produced はプロデューサー小林武史。

⑥(2) 「Mr.Children REFLECTION {Live&Film}」（総計 412）

- ・Visual Produced の項目がある。
- ・Sound、Lighting の人数が少なめ。
- ・Special Thanks には Promotor と小林武史。
- ・Produced は Mr.Children。

<比較検証結果>

④(1)(2)→同じアルバムツアーなので、ほとんど違いがないことが分かった。

⑤(1)(2)→(1)と(2)の間で 10 年の期間があるので、エンドロールの書き方には違いがあることが分かった。

⑥(1)(2)→事務所が変わる前は、プロデューサーがいたので Produced の欄はプロデューサー名であったが、事務所が変わった後は、Produced の欄が Mr.Children に変わっていることが分かった。

以上のように、エンドロールには、収録されているライブ当日に実際に関わっているステージまわり、音響、照明、カメラマンなど、イメージしていた役割の人達だけではなく、プロモーター や DVD のパッケージ担当、ライブ会場でのキッズケアなど、そのライブと、ライブが行われたツアーや、ライブが収録された DVD に関わる全ての人達、マネジメントに関わる全ての

人達の名前が載せられていることが分かった。

## 5. 考察

9作品のエンドロールを確認し、それぞれのエンドロールに特徴があることが分かったが、以下に私が感じた点を記述する。

・Visual (Projection) の項目の人数が少ないライブは、曲それぞれで異なった演出、映像が少ないのでないかと感じた。実際にそれにあてはまるライブは、最も過去のライブで、今から20年ほど前のものなので、現代よりは映像技術が発達していなかった点も関与しているのではないかと感じた。逆に、この項目が多いライブは、曲それぞれの演出が様々であり、DVDを見ているうえでもそれは感じることができた。

・人数が全体的に少ないエンドロールのものは、ホールツアーなど、規模が小さいものがそれにあたると感じた。また、特殊効果の項目がないのも、ホールツアーの会場であるからこそなのではないかと感じた。逆に、人数が全体的に多いエンドロールのものは、全国ツアーなどの規模が大きいものであると感じた。その分、撮影スタッフの人数やトランスポートの人数も必要になってくるのではないかと感じた。

## 6. まとめ

今回の研究動機であった、エンドロールにはどのような役割の人達の名前が載せられているのかという点は、9作品のエンドロールの統計をとる中で把握が出来たように思う。

ライブの制作やDVDの制作、マネジメントに関わる全ての人達の名前が載せられているので、一つのライブに関わっている人達を把握するのには、エンドロールの確認は有効な手段であることが分かった。

今回の研究は、エンドロールの人数の統計と、載せられている人達の役割を知るいうところまでだったので、今後はさらに細かく、エンドロールに載せられている人達の役割ひとつひとつに目を向けていきたいと思う。